

イザヤ書60-61章 「シオンの輝き」

1A 栄光の都 60

1B 財宝を携える国々 1-9

2B 都に仕える諸国の王 10-18

3B 神の栄光の輝き 19-22

2A 救われる残された民 61

1B メシアの油注ぎ 1-3

2B 主の祭司 4-11

本文

60章を開いてください。前回、私たちは、イスラエルの残りの民が、断食から悔い改めを始めるのですが、主が、行いが改まっていない形だけであることを明らかにされた部分を読みました。それで彼らは、自分たちの罪の深さを知り、手も足も、口もすべてが墮落していることを悟り、へりくだり、悔い改めています。そこで主は、彼ら自身に全く義がないことに、かえって憐れみをかけ、ご自身の義によって、一方的に彼らを救われるところを見ました。そして59章の最後の部分では、主が、敵に対して戦われて、滅ぼして、イスラエルの残りの民を救われる約束が書かれています。

60章はその後の幻です。主が栄光をもってエルサレムに戻って来られます。そして、神の都となり、神の御国が始まります。そして61章では、残された民が義の櫨の木と呼ばれ、主の栄光を現すようになります。神の御国と、栄光の姿に回復した彼らの姿です。私たち異邦人であっても、キリストにあって、同じように神の国を相続するようになります。

私たちがキリスト者として生きていく時に、何を目標にしているのかをはっきりしておかないといけません。多くの人が、天国にいて、そこで自分の魂が良い所にいるというようなイメージしかいだいていません。しかし、私たちの救いとは、神の国が回復することです。つまり、罪を犯す前のアダムに神が与えられていたもの、すなわち、人が神の支配の中に入ることによって、自分が地を支配し、その被造物を管理するということでもあります。神のかたちに造られた人が、被造物を任されて、それを管理している中で神の栄光を現すことでもあります。

これは「御国の福音」と呼ばれます。福音書において、バプテスマのヨハネ、そして主イエスご自身が、「神の国は近づいた。悔い改めなさい。」と宣べ伝えられました。そしてこうあります。「マタイ4:23 イエスはガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒やされた。」彼らは、病気や煩悩が直されて、それで後に来る、罪のない、ゆえに病のない神の国を体験していったのです。

1A 栄光の都 60

1B 財宝を携える国々 1-9

¹「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。² 見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。³ 国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。

この「あなた」というのは、エルサレム、シオンのことです。エルサレムが、人格のある者であるかのように語られています。主の栄光が輝いています。それは天から主ご自身が降りてこられました。ゼカリヤの預言が、主がオリーブ山に来られて、そこに立ち、それからエルサレムに主の栄光が留まることを次のように教えています。14章4-9節を読みます。

4 その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ、残りの半分は南へ移る。

5 「山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたはわたしの山々の谷に逃げる。ユダの王ウジヤの時に地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げる。」

私の神、主が来られる。

すべての聖なる者たちも、主とともに来る。

6 その日には、

光も、寒さも、霜もなくなる。

7 これはただ一つの日であり、

その日は主に知られている。

昼も夜もない。夕暮れ時に光がある。

8 その日には、

エルサレムからいのちの水が流れ出る。

その半分は東の海に、

残りの半分は西の海に向かい、

夏にも冬にも、それは流れる。

9 主は地のすべてを治める王となられる。

その日には、

主は唯一となられ、御名も唯一となる。

このように、主がエルサレムから世界を支配されます。そのことによって、これまで暗闇の中にいた諸国の民が、光を見つけて、王たちもそこにやってきます。

⁴ 目を上げて、あたりを見渡せ。彼らはみな集まって、あなたのもとに来る。あなたの息子たちは遠

くから来る。娘たちは脇に抱かれながら。

イスラエルの地の果てに散らされた民が戻ってきます。彼らが、脇に抱かれて来るとあるように、諸国の王たちの支援を受けて戻ってきます。ちょうどかつて、ペルシアの王キュロスの全面的な支援で、ユダヤ人がエルサレムに帰還させるようにしましたが、そのことが全世界的に起こります。

⁵そのとき、あなたはこれを見て晴れやかになり、心は震えて、喜ぶ。それは、海の富があなたのごとくに移され、国々の財宝もあなたのもとに来るからだ。⁶らくだの大群が、メディアンとエファの若いらくだが、あなたのごとくをおおい尽くす。これらシェバから来るものはみな、金と乳香を携えて、主の誉れを宣べ伝える。⁷ケダルの羊もみな、あなたのもとに集まり、ネバヨテの雄羊は、あなたに仕える。これは受け入れられ、わたしの祭壇に献げられる。わたしは、わたしの輝かしい家をさらに輝かす。

世界の国々が、その財宝をエルサレムに持ってきて、それをエルサレムにいる主に献げます。メディアン人は、シナイやアラビアに住んでいる人たちです。そしてケダルもアラビアにあり、それで彼らはらくだを連れてきます。それからシェバは、あのシェバの女王がソロモンに贈り物を携えてきましたが、同じように携えてきて、いかに主がすばらしいかを宣べ伝えます。シェバの女王が、ソロモンの神をほめたたえたように、です。そして、羊を携えてきたら、それは祭壇のいけにえに使われます。要は、世界にある名産が王なるキリストへ拝礼するために、用いられるのです。

主は、へりくだった姿で初めに来られましたが、それでも東方からの博士が、幼子のイエスに黄金と乳香と没薬を献げました。それを見たユダヤ人たちは、イザヤ 60 章のこの幻のことを思ったに違いありません。

⁸ 雨雲のように飛ぶ者、鳩のように巣に帰る者はだれか。⁹ まことに、島々はわたしを待ち望み、タルシシュの船は真っ先に、あなたの子らを遠くから運んで来る。彼らの銀と金とともに。それは、あなたの神、主の名のため、イスラエルの聖なる者のためであり、主があなたを輝かせたからである。

タルシシュの船です。タルシシュは、スペインの北部にあったであろうと言われる国ですが、そこが当時の西の果てであり、タルシシュの船が地中海をまたぐ国際船であり、国際貿易を代表しています。そして、このタルシシュの船に、離散のイスラエル人たちを連れてきています。

これらのことは、千年王国で起こることです。将来の幻です。しかし、私たちは、この幻をしっかりと抱いているからこそ、御国のために、地上の富を用いることができるのです。不正の管理人のたとえを思い出してください。自分が解雇された後に、借りを作るために、債務書の金額を書き換え

て安くしました。そして主は言われます。「ルカ 16:9 わたしはあなたがたに言います。不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。」

2B 都に仕える諸国の王 10-18

¹⁰ 異国の民もあなたの城壁を築き直し、その王たちもあなたに仕える。わたしは激しく怒って、あなたを打ったが、恵みをもって、あなたをあわれむからだ。¹¹ あなたの門はいつも開かれ、昼も夜も閉じられない。国々の財宝があなたのところに運ばれ、その王たちが導かれて来るためである。¹² あなたに仕えない国民や王国は滅び、これらの国々は荒れ果てる。¹³ レバノンの栄光は、もみの木、すずかけ、檜も、ともに、あなたのもとに来て、わたしの聖所を輝かせる。わたしは、自分の足台を栄光あるものとする。

ここに書かれているのは、安全の約束です。異邦の民が、主の栄光のゆえにエルサレムの城壁を建て直し、美しくしていきます。異邦人の王たちが、そのことに仕えるからです。これは考えられないことです。城壁は、まさにそれら敵どもから守られるために存在しているのであり、その敵が今、彼らの救いと守りの象徴である城壁再建に携わっているのですから。そして門がいつも開いているということも、あり得ないことです。日没が近づいたら、門は閉じられ、遅れてきたものがない、決して開けません。外敵が来て、滅ぼしてしまうかもしれないからです。しかしそれがいつも開かれている、昼だけでなく夜もということになれば、敵はいないのです。

さらにレバノンからの木が運ばれて、さらに豊かになります。ソロモンの建設した神殿のことを思い出しますが、杉だけでなく、もみの木、すずかけ、檜もともに聖所にやってきます。ソロモンの栄光以上の栄光です。こうした、ご自分の足台としているエルサレムを栄光あるものとされます。

ちなみに、ここに主に仕えない国々があるようなのですが、そのような平和の秩序を壊す分子は、御国の時代には滅ぼされます。主が味方しておられるのですから、だれも敵対できないのです。今、私たちは霊的にそのようにされています。「ロマ 8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

¹⁴ あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来る。あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏して、あなたを『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』と呼ぶ。¹⁵ あなたは捨てられ、憎まれて、通り過ぎる人もなかったが、わたしはあなたを永遠の誇り、代々の喜びに変える。¹⁶ あなたは国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う。あなたは、わたしが主、あなたを救う者、あなたを贖う者、ヤコブの力強き者であることを知る。

エルサレムは、大いなる慰めを受けます。国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う、という表現は、

まさに神が彼らを通して、赤ん坊を抱く母のようになってくださるというような優しさです。

この都はこれまで、多くの国々の王に攻められ、苦しめられました。しかし、それら攻めてきた者たち、苦しめた者たちが王なるキリストの前でひれ伏しています。ピリピ書に、すべてのひざが、かがめられ、すべての舌が、イエス・キリストを主と告白する、とありますね。そして、憎まれ、捨てられてきましたが、今は、永遠の誇りの町、代々の喜びに変えられます。今の悲しみは一時的であっても、それが永遠の慰めになるのです。

異邦人のキリストを信じる者たちも、キリストのゆえに迫害を受け、苦しめられると教えられていますが、その一時的な悲しみはとこしえの慰めに変えられます。そして、すべての敵が主の前にはひれ伏し、そういった者たちを自分の足のところにひれ伏させることになるのです。フィラデルフィアの教会に対して主が言われていましたね。「3:9b 見よ。彼らをあなたの足もとに來させてひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」

¹⁷ わたしは青銅の代わりに金を運び入れ、鉄の代わりに銀、木の代わりに青銅、石の代わりに鉄を運び入れ、平和をあなたの管理者とし、正義をあなたの監督者とする。¹⁸ あなたの国には暴虐はもう聞かれず、あなたの領土には暴行と破滅は聞かれぬ。あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぶ。

エルサレムに運ばれてくる貴金属は、これまでの神殿にあるもの以上に、上質のものになります。ソロモンの神殿の時も、金や銀がふんだんに使われて、青銅は数えきれませんでした。しかし、主が来られたら、ソロモンの神殿以上になります。しかし、この富と栄華は、「平和」に裏打ちされたものであり、その平和は「正義」に裏打ちされたものです。ヘブル語のシャロームは、私たちの考えるような、争いが無い状態だけでなく、繁栄している姿もあります。戦争というのは、これまでのものを奪い取る力を持っています。町を廃墟にさせます。自然を荒廃させます。平和があることで、富が集まります。キリストにある神との平和があるので、私たちも信仰において豊かにされます。そして神の義は、恵みによって与えられているので、敵意も取り除かれて、それで平和なのです。

門は賛美です。主がおられるので、人々が賛美をもって入っていきます。主がおられるので、暴行と破滅は聞かれなくなり、その城壁が救いと呼ばれるのです。

3B 神の栄光の輝き 19-22

¹⁹ 太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。²⁰ あなたの太陽はもう沈むことがなく、あなたの月は陰ることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。

18 節までが地上の千年王国でしたが、19 節からは新天新地の幻になります。他のイザヤ書の預言では、30 章 26 節に「【主】がその民の傷を包み、その打たれた傷を癒やされる日に、月の光は太陽の光のようになり、太陽の光は七倍になって、七日分の光のようになる。」とありました。けれども今は、太陽も月もないと言っています。それは主ご自身がこの都に住まわれて、永遠の光となるからです。「黙 21:23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。」

そして、その光によって自分の心の光も暗くなることはない、と、教えています。自分が見ているもので、自分自身が明るくなる、暗くなる話を、主もしておられました。「マタ 6:22-23 からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。」

ところで、ここで興味深いのは、主は初めに造られたものを回復されていることです。創世記 1 章では、第一目に光が造られ、第四日目に太陽や月、星がつくられています。では一日目の光はどこから来ているのか？ということですが、それは主なる神の栄光であると言えるのです。神の元々の創造の秩序へと神が最終的に戻されるのです。

²¹ あなたの民はみな正しい者となり、永遠にその地を所有する。彼らは栄光を現す、わたしが植えた枝。わたしの手で造ったもの。²² 最も小さい者も軍団となり、最も弱い者も強国となる。わたしは主。時が来れば、速やかにそれをする。」

ここに、残された民の完成された姿が書かれています。正しくなったとありますが、これは神との関係が完全に正された状態です。そして、アブラハムに約束された地を受け継ぎます。ここに、キリストにある異邦人も加えられます。永久に土地を所有、つまりアダムの時に神の与えられた約束がかなえられています。このことが、「御国を受け継ぐ」という言葉に含まれている内容なのです。

そして、神の栄光を表しています。主ご自身が植えました。ロマ 11 章に、イスラエルは、アブラハム、イサク、ヤコブを根とする栽培種であることを、パウロが語っていました。そして、神によって造られました。どんなに小さな者でも強者になります。主イエスも、同じことを話されましたね。「マタ 11:11 まことに、あなたがたに言います。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより偉大な者は現れませんでした。しかし、天の御国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。」

そして、異邦人のキリスト者は、野生種だったけれども、その枝から栽培種に接ぎ木されたものであるとパウロは話しました。同じように、アダムに約束された支配を受け継ぎます。また、神の栄光を現します。「2コリント 3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主

の働きによるのです。」

そして、この幻を今、しっかり持っていなさいと勧めているのです。「時が来れば、速やかにそれをする。」とされています。ちょっと待て、これはずっとずっと後のことでしょう、と言われるかもしれませんが、私たちキリスト者も、まさに新天新地の幻を自分が信仰を持った時に与えられたのです。「2コリント 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」全てが新しくなったというのは、新天新地における言葉であります。

2A 救われる残された民 61

次、61 章では、続けて、正しい者として植えられた者たち、回復したイスラエルの民について預言があります。60 章は、エルサレムの都そのものですが、61 章はそこに住む者たちです。

1B メシアの油注ぎ 1-3

¹ 神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、² 主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。³ シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。彼らは、義の樅の木、栄光を現す、主の植木と呼ばれる。

シオンが、灰の中にあります。そこにいる者たちは廃墟の中にいます。けれども、ここにある「わたし」すなわち、主の霊が留まっておられる方、メシアが、恵みによる解放を与えてくださいます。貧しき者、心が傷ついた者には罪の赦しと癒しを、そして捕らわれている者には解放を与えられます。それを「主の恵みの年」と呼んでいます。御国の福音です。主が、中風の者について「あなたの罪は赦されました」と言われ、また癒されました。そして、悪霊に縛られている者たちを、解放されました。こうやって、御国が現れていることを示されました。

興味深いことに、主イエスは、ナザレの会堂でこの箇所を読まれましたが、途中で止めました。「ルカ 4:17-21 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その巻物を開いて、こう書いてある箇所に目を留められた。18 「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、19 主の恵みの年を告げるために。」20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」イザヤ 60 章 2 節の、恵みの年のところで終わり、次の「われらの神の復

「復讐の日」は告げられなかったのです。これを実現するのは、ご自身が再び来られる時です。

ところで、この「恵みの年」は、ヨベルの年と関わりがあります。イスラエルの民は、神からカナンの地を与えられました。今のイスラエルのある土地ですが、そこをイスラエルの十二部族が、割り当て地を与えられました。しかし、その中である人は貧しくなってしまいます。それで土地を売って手放さないといけなくなり、もっと貧しくなれば身売りをして奴隷にならないといけません。またある人は大きな負債をしなければいけないでしょう。

しかし、イスラエルの民は、神がエジプトから連れ出した民です。エジプトで奴隷であったところを解放して、ご自分のものにした人々です。彼らは自由でなければいけません。そして彼らに下さった土地を失わせてはいけません。それで主は、ヨベルの年というものを設けられました。七年を七倍したら49年ですが、その翌年、つまり50年目に、一切のものを帳消しにすることをお決めになりました。50年目には、あらゆる借金が帳消しになりました。奴隷であった者は解放されて、自分の家に戻りました。そして土地を売ってしまって、失った者には、その土地が戻ってきます。とてつもない恵みの大解放が訪れます。これが、「主の恵みの年」です。

神は、ヨベルの年に基づいて、この世界を恵みによって大解放することを決められました。万物を刷新することを計画しておられます。これまで罪によって、負の遺産がたくさん溜まっているこの世界を、その負債を一切、帳消しにして、新たにやり直すようにして下さるのです。ペテロが、五旬節に聖霊が弟子たちに下り、そこにいたユダヤ人に、主が戻ってこられて万物を回復することを語りました。「使 3:19-21 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。20 そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わして下さいます。21 このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」万物が改まるのです。

こうして、主は恵みの年を訪れさせました。そして次に来られる時に、神の復讐の日も告げられて、敵をことごとく滅ぼし、彼らに究極の慰めをくださいます。そして、嘆きも、涙も、苦しみも過ぎ去るようにして下さいます。

2B 主の祭司 4-11

⁴ 彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。

⁵ 他国の人は立って、あなたがたの羊の群れを飼い、異国の民があなたがたの農夫となり、ぶどう作りとなる。^{6a}しかし、あなたがたは主の祭司と呼ばれ、われわれの神に仕える者と言われる。

廃墟となっていたエルサレムの町を、その義の樅の木と呼ばれる彼らが建て直し、一新させま

す。そして、彼らは主の祭司となるとあります。異国の民が農夫となりますが、彼らは祭司となるとあります。これは、彼らが神の義を持っているので、神と人との仲介となっているということです。主はイスラエルを、「祭司の王国」にするとされていました(出エジプト19:6)。そして、キリスト者も、そのように呼ばれています。「1ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。」私たちは神のものとされ、人々に対して神を代表し、自分たちを通して人々が神の恵みに触れていく、祭司の働きに召されています。神に仕えることによって、人々を治めるようになります。

^{6b} あなたがたは国々の財宝を味わい、彼らの富を誇る。⁷ あなたがたは恥に代えて、二倍のものを受け、人々は侮辱に代えて、その分け前に喜び歌う。それゆえ、人々は自分の地で二倍のものを所有し、とこしえの喜びが自分のものとなる。

これは、世界の富が神に仕えるために用いられていくようになるということでもあります。「二倍」という表現は、これまでに失ったものを取り戻すのみならず、さらに多くの祝福が待っているということです。使徒パウロは、将来のユダヤ人のことについてこう言いました。「ロマ 11:12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。」ユダヤ人がイエスをメシアとして認めなかったことで、イエスの名が世界中に広がっているのであれば、彼らが回復したら、どれほどの富をもたらすのかという問いかけです。とてつもない喜びであります。このことが将来、終わりの日に起こります！そこで、今、ここに喜びと踊りに満ちる約束があるのです。

⁸「まことに、わたしは主、公正を愛し、不法な略奪を憎む。わたしは真実をもって彼らのわざに報い、永遠の契約を彼らと結ぶ。⁹ 彼らの子孫は国々のうちで、末裔は諸国の民のうちで知れ渡る。彼らを見る者はみな、彼らが主に祝福された子孫であることを認める。」

主は公正の神なので、義とされたイスラエルを通して富の不公平な分配も正されます。そして、彼らに永久の契約を結ぶと宣言されます。主は、エレミヤを通して彼らに新しい契約を結ぶと言われました。イエスが弟子たちに、ご自分の血が新しい契約の印であると言われましたが、その契約をもってイスラエルを終わりの日に祝福されます。

そしてその子孫が、確かに神に祝福されている者たちであると国々が認めます。私たちも、御霊によってキリストの祝福を受け継いでいる者たちです。神を知らない人々が、私たちを見て、確かに霊的な祝福を与えている神を認めることができるようになる、ということです。

¹⁰ 私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。主が私に救いの衣を着せ、

正義の外套をまとわせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。
11 地が芽を出し、園が蒔かれた種を芽生えさせるように、神である主が、正義と賛美をすべての
国々の前に芽生えさせるからだ。

10 節の主語、「私」がだれを指すのか、いくつかの意見があります。これは、預言者イザヤが回復したイスラエルの民を代表して、救いの衣を着せてくださった、というものです。また、この「私」を、エルサレムのことだという意見もあります。60 章でエルサレムが、擬人化されていました。

そしてもう一つ、ここの「私」が、61 章 1 節にあった、主のしもべ、キリストが語られている言葉だ
というものです。主キリストが、まるでご自身が救われた者であるかのように話しておられます。けれども、これは主のキリストご自身が、贖われた者たちと一つになり、兄弟となってくくださったからです。先ほど話したように、父と子の関係の中に、キリストの内にある者は招き入れられました。それゆえ、私たちがキリストにあって神を父とし、私たちは神の子どもとなることができました。「ヘブル 2:11-12 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、こう言われます。「わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。」」イエスご自身が、兄弟たちとともに賛美しておられます。

こうして、救いの衣、正義の外套を身につけた方がおられます。そして花婿のような栄冠、花嫁のような宝玉を飾っておられます。私たちが、キリストにあってこのように栄光で輝くことは、確かなことです。そして、人々に対して、国々に対して、正義と賛美を芽生えさせるのです。正義があれば、人々から賛美が出てきます。

こうして回復したシオンと、回復した民の姿があります。次 62 章には、その時が来るまで黙っていないという声が聞こえます。主は、決してその幻をあきらめない、いつも、いつも覚えて、その目標に至るべく事を行われる情熱です。